

まえがき

『ICU 日本語教育研究』第 19 号をお届けいたします。

発刊母体であるグローバル言語教育研究センター (RCGLE) は 2018 年 4 月 1 日に日本語教育研究センターから発展的に発足し、『ICU 日本語教育研究』を第 15 号より発刊してまいりました。グローバル言語教育研究センター発足以来の 5 年間、本紀要の発刊以外に、言語教育の指導・研究の促進という使命のもと、講演会及びワークショップやシンポジウムの主催、そして夏期日本語教育 (SCJ) の運営を中心に活動を続けておりました。しかし、教養学部との業務内容の融合に向け、グローバル言語教育研究センターは 2023 年 3 月 31 日をもって閉所いたします。これまで本研究センターの活動にご尽力ならびにご支援くださった学内外の方に厚く御礼を申し上げます。

また、本センター閉所に伴い、歴史ある「ICU 夏期日本語教育」が終了し、2023 年度より日本語と日本研究の内容が両輪となる新しいプログラム“International Summer Program in Japan”として生まれ変わります。本学に新しく設置されるセンターが運営を担当いたします。これまで長年に渡って SCJ を支えてくださった学内外の方に敬意をもって、心より感謝を申し上げます。

本センターが発刊する最終号には研究論文が 1 点、研究ノートが 3 点、実践報告が 3 点、夏期日本語教育の報告文が 4 点、ライティングサポートデスク (WSD) 報告 1 点、そして講演会・ワークショップの報告を掲載いたしました。幅広いトピックが取り上げられ、多様な視点から日本語教育及び言語教育を見つめることができ、読み応えのある号に仕上がりました。『ICU 日本語教育研究』につきましては、後継誌を日本語教育プログラム (JLP) が中心となって発行する予定です。これからも日本語教育についての研究成果や活動の報告が活発に発信される場が本学にて継続され、守られることに感謝いたします。そして次号を楽しみに待ちたいと思います。

2023 年 3 月吉日
グローバル言語教育研究センター長
藤井彰子

目 次

| | | |
|---|--------------|-----|
| まえがき | 藤井 彰子 | |
| 研究論文 | | |
| タイの教員養成制度改定から見えてくるもの －これからの中等日本語教員に求められるコンピテンシーとは－ | 西野 藍 | 3 |
| 研究ノート | | |
| 現代日本語の親族内における呼びかけ語の実態調査－大学生を中心に－ | 呉 惠卿 | 23 |
| 継承日本語と第二言語の狭間にいる学生の読解プロセスとストラテジー －発話思考法とインタビューによる観察－ | 藤本 恭子、金山 泰子 | 39 |
| 「日中同形同義語＋を＋和語動詞」の習得に及ぼす母語の影響 －中上級レベル中国人日本語学習者の場合－ | 張 名瑤 | 55 |
| 実践・調査報告 | | |
| 「日本語特別教育 3」実践報告－担当教員の気づきから－ 小澤 伊久美、坂田 麗子、吉田 睦、桑野 幸子、三浦 綾乃 | | 69 |
| 学習者の関心から広げる語彙・漢字教育 －「中級日本語学習者のための語彙・漢字 1」の漢字教材作成活動から－ | 吉田 睦 | 85 |
| 初級日本語クラスにおける TBLT (Task based language teaching) に即した評価法 －2022 年度夏期日本語教育 C3 コース実践報告－ | 武田 知子、小柳津 成訓 | 97 |
| 夏期日本語教育報告 | | |
| 総括 | 桜木 ともみ | 111 |
| 教務報告 | 西野 藍 | 117 |
| 交流プログラム報告 | 保坂 明香 | 124 |
| 事務報告 | 事務 室 | 132 |
| ライティングサポートデスク報告 | | |
| チューターワークショップの概要と今後の課題 －書き手とチューターの成長を目指して－ | 相場 いぶき | 139 |

講演会・シンポジウム報告

| | |
|--|-----|
| 2021 年度連続講演会「タスクに基づく言語教育の理論と実践」 | |
| 第四回講演会「TBLT (Task-Based Language Teaching) のこれまでとこれから － TBLT 実践の際に心に留めておきたいこと－」 | 149 |
| * 第一回から第三回までの報告書は第 18 号に掲載しました。 | |
| 2021 年度連続講演会・ワークショップ「第二言語学習における舞台芸術の役割」 | |
| 第三回講演会・ワークショップ「言語教育における演劇手法・ドラマメソッド」 | 150 |
| * 第一回と第二回の報告書は第 18 号に掲載しました。 | |
| 2022 年度連続講演会「デザインによる課題解決と未来展望」 | |
| 第一回講演会「デザイン思考－デザインによる課題解決とイノベーション－」 | 151 |
| 第二回講演会「UX デザインとユニバーサルデザイン － Human Centered Design の理解へ向けて－」 | 152 |
| 第三回講演会「学び × デザイン × 授業」 | 153 |
| 第四回講演会「サクセスケースメソッドの適用による研修評価」 | 154 |
| 第五回講演会「教育・学修支援を支える教学デザイン・組織デザイン」 | 155 |
| 活動、教職員一覧 (2022 年 4 月～ 2023 年 3 月) | |
| 活動 | 159 |
| 教職員一覧 | 160 |